

平成28年度環境・食育校種間連携パートナーズスクール事業



森の京都

## 里山 ～人と森の調和と共生～

平成28年10月11日(火)、第3回環境・食育校種間連携パートナーズスクール事業を府立須知高等学校で実施しました。和知中学校1年生、須知高校食品科学科2年生、京都大学大学院生が、「年輪」について共に学びました。

まず、「年輪の秘密」と題して、大学院生から講義を受けました。バームクーヘンの作り方と比較しながら、木は樹皮の内側にある形成層で細胞分裂によって成長することや、気温や照度の変化によって木の光合成活動が変化し年輪ができることなどを教わりました。

次に、中学生たちは樹齢60年程度のヒノキを使って、自分の生まれた年や歴史上の出来事があった年など、事前に調べてきた事項を年輪に書き込みました。自分の生まれた年と比較しながら歴史上の出来事を実際にイメージしたり、木の大きさを感じたりしながら熱心に作業を進めました。今年度は、森の京都のターゲットイヤーということで、できあがった年輪年表については、平成28年10月15日(土)、16日(日)開催の第10回京都丹波美術工芸教育展にて展示されます。

最後に須知高校田中教諭より今年度の取組の成果をまとめて紹介していただいた後、3回の事業を通じた感想の交流が行われました。中学生からは「3回の事業を通して須知高校がどんな学校か知ることができた。」「京丹波町が自然豊かな土地であることがよく分かった。」、高校生からは「中学生への指導は初めてだったが、一緒に作業をしていく中でこちらが教えられることも多く、勉強になった。」といった感想が出ました。

大学院生からは「自然を守ることの大切さと世代間で自然の良さを承継していくことの大切さを忘れないでください。」という激励の言葉がかけられ、参加者それぞれにとって学びの多い取組となりました。

